

○取組評価及び総合評価一覧表（令和6年度）

	基本目標1		総合評価	基本目標2		総合評価	基本目標3		総合評価	基本目標4		総合評価	基本目標5		総合評価	基本目標6		総合評価	基本目標7		総合評価		
	取組評価			取組評価			取組評価			取組評価			取組評価			取組評価			取組評価			取組評価	
	担当	会議		担当	会議		担当	会議		担当	会議		担当	会議		担当	会議		担当	会議		担当	会議
1	A	A	A	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	B	B	A	A	B		
2	A	A		A	A		B	B		A	A		A	A		B	B		A	A			
3	A	A		A	A		A	A		A	A		A	A					B	B		B	B
4																						B	B

○総合評価に対する説明や委員の意見について

【基本目標1】共に支え合うまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	重層的支援体制整備事業を開始したことで、包括的支援体制の構築が進められたことや地域福祉の重要性の普及啓発、地域福祉活動の推進が図られていることから総合評価をA評価とした。 複合化・複雑化する支援ニーズに対する包括的支援体制の構築に期待する。
A	委員の意見（抜粋）
	・小中学校で開催される各種講座について、地域住民や保護者への参加呼びかけにより、市民への意識・関心の向上に寄与できるかもしれない。 ・福祉活動を行う人材の高齢化に伴い、若い人材の育成が必要ではないか。 ・重層的支援体制整備事業について、スムーズな運用を期待する。

【基本目標2】のびやかな人生が息づくまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	これまで取り組みが不十分であった長寿社会の基盤づくりだが、令和6年度は取組を強化する点はあるもののC評価からB評価へと変更された。総合的な評価では、各委員の評価が分かれる点もあったが、大局的に判断し、A評価とした。 制度やサービス等の更なる周知が必要と考える。
A	委員の意見（抜粋）
	・老人クラブ数が減少傾向になっているなど、役員のなり手をカバーする取組を全市的に展開する時期と考える。 ・高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けるためには、「住まい」の確保と「住まい方」の支援を一体的に提供する必要がある。

【基本目標3】健康を守り育てるまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	全体を通して十分な取り組みがなされており、健康づくりに関する意識の醸成が図られていることからA評価とした。 保健予防活動の充実については、検診等の受診者数の減少がみられるので要因を分析しつつ、継続した取組を行っていただきたい。
A	委員の意見（抜粋）
	・生活習慣病や癌の疾病状況と体験談を伝え、検診の大切さを伝えることが必要である。 ・地域住民が多様な方法で主体的に取り組むことができる仕組みづくりと、それらの活動が継続されるよう支援機関の連携と役割分担が必要である。 ・うつ病など精神疾患に関する取組の強化が必要と思われる。

【基本目標4】やさしさに満ちたまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	障がい者（児）への理解・自立支援・社会参加の促進に対して、それぞれ目標どおりに進んでいるためA評価とした。 後見制度の活用促進については、各支援機関の連携強化が必要と思われる。
A	委員の意見（抜粋）
	・障がい者（児）の社会参加がよく図られていると思う。 ・障がい者自身の高齢化に伴い、本人・親世代から不安の声が上がっていることから、支援体制づくりが必要である。 ・あいサポーター研修会を各所で開催し、心優しい市民を育成することが必要である。

【基本目標5】安心して子どもを生み、健やかに育つまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	子どもの居場所づくりや親の働きやすい環境づくりを行っていること、児童虐待の未然防止や早期発見などの見守り体制が図られていることからA評価とした。 子育て世帯へのアンケート調査での課題の洗い出しと解決に向けた取り組みが必要と思われる。
A	委員の意見（抜粋）
	・市内企業等へ子ども食堂への支援の呼びかけをする。子ども食堂を利用する子ども達と交流を深めることで、子どもの身体的・精神的変化を確認することができる。 ・ファミリーサポートセンターの役割は大きく、児童虐待防止等の情報共有を図る必要が一層求められていると考える。

【基本目標6】男女が共に参画するまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	男女共同参画社会の実現のための目標値は高く、目標の達成は一朝一夕でなされないことを理解するが、取組の強化を求めB評価とした。 男女共同参画意識の浸透、理解と認識を深めるためには地域、社会活動への積極的な参加促進と環境改善において更なる取組の強化が必要と思われる。
B	委員の意見（抜粋）
	・性の多様性の理解促進セミナーの継続開催と併せて、外部講師による保護者向けの性教育の開催もあって良いのではないかと思います。 ・女性の登用について、年齢や性別ではなく適材適所な人材配置が基本と思うが、活動にあたり、社会環境の整備や生活環境の支援等が必須だと思います。

【基本目標7】安全で安心して暮らせるまちづくり

総合評価	総合評価に対する説明や今後の取組
	評価する項目が多く、委員の意見も分かれているが、総合的に判断しB評価とした。 防災に対する取組は進んでおり、市民の意識も高いものと考えているが、要支援者に対する支援体制などの課題が残る。市内の犯罪件数の増加や消費生活相談件数の増加が懸念される。
B	委員の意見（抜粋）
	・発災時、自治体職員だけで避難所開設・運営をすることは現実的ではなく、地域住民に委託すべきことなどを含め、抜本的な見直しが必要と考えられる。 ・高齢者が多くなることから、消費者被害に遭わないよう啓発活動に力を入れて欲しい。 ・公開ケース研究会は稀なケースの検討が多く、内容の精査・検討が必要と感じる。